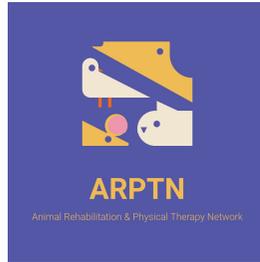


Animal Rehabilitation & Physical Therapy Network ARPTN



SINCE 2023

本日の流れ

症例検討

腰椎椎間板ヘルニア術後のミニチュアダックスフンドのリハビリテーション

※今回は英文抄読はなし

症例 一経過一

ミニチュアダックスフンド 去勢オス

12歳5か月 (初回介入時)

体重4.5kg BCS : 3/5

診断名 : 腰椎椎間板ヘルニア (L1-2) グレード3-4

2023.6.22 後ろ足が動かなくなりかかりつけ医受診。他院を紹介されCTにて上記診断。

同年6.23 手術実施 (術式不明) 同年6.25 退院

同年7.4 訪問リハ開始

既往歴 : 歯周病、大腸炎



基本情報

- 飼い主 : 夫 (KP、会社員、日中不在)、妻 (専業主婦)
- 一軒家の2階に居住、フローリングの滑り止めなし
- ペットシートに排尿、排便は屋外に出ないとしない
- 以前は朝1時間、夕方10分程度の散歩
- 主訴 : 歩けない。リハビリをしているが正しいかわからない。
- HOPE : 自由に歩けるようになってほしい。

初回評価 (2023.7.4)

- 覚醒：正常
- 眼がやや白い
- 他人にもよくなつくが抱っこするとやや鳴く様子あり
- 右膝蓋骨がやや緩いが脱臼なし
- 筋緊張：両棘下筋ややHigh、両股関節内転筋High
- ROM-T：両肩関節伸展、両股関節外転、右足根関節屈曲にやや制限あり
- 起き上がり：自立、立ち上がり：困難、立位：両後肢の支持性わずか、**移動：両前肢で移動。後肢の動きなし**

神経学的検査

2023.7.4			2023.8.5		
	左後肢	右後肢		左後肢	右後肢
ナックリング	0	0		0	0
踏み直り	0	0		1	0
跳び直り	0	0		1	0
引っ込め反射	1	1		1	1
表在痛覚	1	1		1	1
深部痛覚	2	2		2	2
自力排尿	可能。認識あり。			可能。認識あり。	



左後肢の固有位置覚がやや改善
その他著変なし

移動



術後早期 (17日後) に股関節屈曲、骨盤帯挙上出現

スリング歩行



左後肢の踏み直りがあるが不十分
飼い主の負担が大きい
スリングの購入に加え、車椅子の購入も勧める

Problem

- #1. 両後肢不全麻痺、固有位置覚消失、表在痛覚鈍麻
- #2. 両棘下筋・両股関節内転筋の筋緊張亢進
- #3. 両肩関節屈曲制限、両股関節外転制限、右足根関節屈曲制限
- #4. 立ち上がり困難、立位保持不十分、歩行困難
- #5. 新たなIVDDの発症、膝蓋骨脱臼リスク
- #6. 飼い主の不安

リハビリ指導内容

- ① マッサージ
- ② ストレッチ
- ③ 四肢屈伸
- ④ 肢端刺激
- ⑤ 立位練習
- ⑥ 犬坐位練習
- ⑦ 歩行練習（スリング使用）
- ⑧ Home ex・ADL指導
- ⑨ 環境調整（車椅子・滑り止めマットの購入指導）

最終評価（2023.8.5）

- 筋緊張：右棘下筋・上腕三頭筋high、両股関節内転筋ややHigh、両後肢全体的にややLow
- ROM：両足根関節屈曲制限あり。腰椎やや後弯。
- 犬坐位：両後肢伸展したままとなることあり。立ち上がり：両後肢支持性不十分。介助を要する。立位保持：両後肢支持性不十分。移動：歩行可能。10歩以上ステップ可能。方向転換にて左右にふらつくが倒れない。
- 屋外スリングなし歩行可能。散歩にて排泄可能。
- 車椅子は購入せず。
- 訪問リハの介入について「本当に良かった。細かく指導してもらえて安心できた」と話しあり。

歩行



2023.8.5 歩行（術後43日）

日常的な歩行動作獲得
ときおり足部から出血が見られるが、車椅子は不要

Discussion

- IVDD (G3) の術後の本症例は、早期に実用的な歩行能力を獲得できた。
- 固有位置覚・表在痛覚が不十分でも、随意的な歩行能力が早期に獲得できた。
- 早期からの訪問リハの利用により飼い主は自信を持ってリハビリを行うことができ、不安感の解消につながった。

- 脊髄損傷後の後肢麻痺における歩行の着眼点はどこか？
- 歩行能力の経過をどのように予測するか？
- スリングや車椅子の適応の判断基準や適切な時期は？

Do you have any Questions ?



ドッグホームリハ
Facebook



@DOG_HOME_REHA



ARPTN
LINE

次回は 9/16(土) 21:00予定
ドッグホームリハのFacebookまたはInstagram
ARPTNのLINEにて通知